

第3学年 社会科の実践

1. 単元名「見つけたよ、まちの人たちの仕事」（全17時間 本時第7時）

2. 単元目標

・地域の販売に関する仕事に関心をもち、買い物調べや商店の見学を通して、地域の人々の販売に関する仕事の特色、その仕事が自分たちの暮らしを支えていること、地域の販売の仕事と国内外の他地域との関わりなどについて理解し、よりよい生活を求める消費者と販売に携わっている人々の工夫や努力について考え、適切に表現する。

社会的事象への 関心・意欲・態度	地域の販売に関する仕事に関心をもち、その特色やその仕事に携わる人々の工夫を意欲的に調べることを通して、その仕事と自分たちの生活との関わりについて考えようとしている。
社会的な 思考・判断・表現	地域の販売に関する仕事を調べる活動から、学習問題を見だし、それについて予想を立てたり、調べたり、話し合ったりする活動を通して、その仕事に携わっている人々の工夫について考え、適切に表現している。
観察・資料活用 of 技能	見学をしたり、調査したりして、地域の販売の仕事に携わっている人の工夫について情報を集め、調べたり分かったりしたことをノートや作品などにまとめている。
社会的事象についての 知識・理解	販売に関するさまざまな仕事の内容や、その仕事が自分たちの生活を支えていることと、販売の仕事の特色と国内外の他地域との関わりについて理解する。消費者には様々なニーズがあること、それに合わせて買い物をする場所を選んでいることを理解する。

3. ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

研究課題「切実な問題意識をもち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」

手立て…子どもの願いや思いの育ちを見とった単元構想と授業づくり

ブロックテーマ…「追究する力、仲間と支え合う自分」

- ・自分の問題をとことん追究する姿
- ・仲間と協働して追究する姿

「聴く・話すについての指導」

自分の考えや思いをもてた時や、求められている答えを導き出せたときは、自信を持って発言ができる子が多い。しかし、考える視点や根拠が分からず、自分の考えや思いをもつことが難しい児童もいる。また、考えや思いを人に伝える力にも個人差があり、相手意識をもち説明ができる児童は限られている。しかし、多くの児童が活動的な学習を好み、まち探検のような実際に見学に行く学習では意欲的で、気づきや考えをまとめる姿が多く見られた。社会科の最初の学習である「わたしたちのまち」では、疑問をもち、学習問題を自分たちで生み出し、調べてまとめるという、学習の流れを経験してきた。見て分

かったことや気づいたことをまとめて、学習が終わってしまった。その事実に対して「どうしてそうなのか」と更に追究していく姿は見られなかった。そこで、ものの見方や背景を考えるような声かけを意識して指導をした。他教科でも、少しずつ児童が主体的に学習を進めていけるよう、指導を行っている。

基本的な聴く話すの約束は、低学年でも取り組んできており、3年でも同じように確認を行い継続して指導を行っている。話し手は「皆に届く声の大きさ」「皆の方を見て」聴き手は「話し手の方を見て聞く」「反応を返す」「手をとめて」という基本的なものである。そこに「〇〇さんにつけたし」「にている」というハンドサインを決め、友達の意見について意識して聴くこと、自分の考えと比較しながら聴くことなど指導してきた。まだまだ完璧とは言い難いが、だいぶ意識をして聴くことができるようになってきている。声の大きさについては、まだまだ課題とする児童が多くいる。そして、その聞き取りづらさが、聴き手の集中力を下げてしまっている現状もある。

「これまでの関わり合い・ひびき合い」

関わりあい、ひびき合いを目指してスピーチ活動を行ってきた。話すことが好きな児童が多かったが、それまでの児童のスピーチは一方的に話することだけであった。そこで3年では、スピーチに対する感想を対話形式で述べるようにしてきた。「私は〇〇と思いますが、△△さんはどう思いましたか」とキャッチボールのように次へとつなげていくように行ってきた。少しずつではあるが、友達を意識して話を聴いたり、話したりする姿が見られるようになってきた。総合的な学習の時間や学活などの様々な話し合いの場面を通し、前の人の発言や、他の友達の意見につなげた発言ができるようになってきている。

4. 単元と指導について

本単元は、自分たちの消費生活に関心を持ち、地域にある店を調べ、消費者に喜んで買ってもらうために売り方を工夫し努力していること、消費者も品質や価格などを考慮し工夫しながら買っていることをとらえ、理解していくことをねらいにしている。また、商品の産地や仕入れについての学習を通して、自分たちが広く国内の他地域や外国などとも関わりがあることに気づくこともねらっている。

3年生の児童にとって消費活動の場や経験は、それほど多くないのが現状である。放課後などに友達と一緒に買い物をするという経験も多くない。学区には、徒歩や自転車で行ける、スーパーや商店、コンビニエンスストア、複合施設、ドラッグストアなど、様々な形態の店が存在している。こうした身近にあるお店を通して、家族の消費生活を見ていくことでよりよい買い物をしていくための力を育てていくのが本単元である。

本単元は、指導要領の内容（2）に準拠しており、「地域の人々の生産や販売について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。」と学習の仕方が示されている。これは、扱う内容が地域であること、生活科が社会科へと変わった3年生の学習段階や発達の段階をふまえてのことである。そして、本単元は児童の身近にある販売店を取り上げることにより、より自分の事として理解を深めていけると考える。

また、この単元では、販売者と消費者の両方の立場から、物事を見ていくことも一つの特徴である。異なる2つの立場から社会的事象をとらえていくことは、3年生にとって簡単なことではない。よって、今はどの立場について考えているのかを明確にさせることが大切であると考え。そして、いろいろな立場の思いや考えに触れることで、3年生なりに相手の立場で考えたり自分の視野や世界を広げたりす

ることができる単元であると考え。

本単元では、多くの家庭が買い物をしているスーパーマーケットと学校の近くにある個人商店を取り上げていく。いろいろな点で違いが出てくる二カ所の見学を取り入れることで、販売者側にも様々な工夫や思いがあることに気づかせたい。また、その中で消費者側が自分のニーズにあったお店を選択していることについて考えさせていきたい。

本単元は、児童にとって比較的身近にあるスーパーや、町探検で見てまわった地域のお店を扱うため、「今までの自分と関わりがある」という事で、多少ではあるが思いを込めたり考えたりしやすくなると感じている。地域のスーパーマーケット「小田原百貨店」を教材の中心にしながら、販売者の工夫を考えていきたい。品揃え・価格・食の安全・利便性・接客サービスなど、様々な視点から、消費者に買ってもらうために働く人々の工夫や努力、思いに気がつくようにさせたい。

単元の導入では、全ての児童に「買い物調べ」に取り組ませ、「なぜ?」「どうして?」といった不思議に思ったことや考えたことから追究を始めていく。更に、児童が調べてきた結果を、表にまとめることで資料とし、その表から分かることや、更に疑問に思うことなどを拾っていき、本単元の中心へとつなげていく。児童の行った「買い物調べ」に対する事実から出る疑問やつぶやきを吸い上げ、単元目標とすり合わせながら学習問題を設定していきたい。

調べていく段階では、「問題⇒追究⇒深める⇒追究…」といった、思考の流れになるようにしていく。学習問題に対して一人ひとりが予想を考え、調べる際の視点を持てることを大切にしていく。学級での学習問題を大切にしながらも、個々の問題や疑問にも立ち返って考えさせたり、学級全体で共有したりするための場を作る。また、その後に追究すべき問題を明確に持てるようにしていく。

スーパーマーケットの見学を通して調べてきた工夫や取り組みをまとめていき、個人商店と比較し、その違いに視点を向けさせる。本時では、スーパーマーケットにはない個人商店の良さを秘密として、この秘密をさぐっていきけるようにしたい。個人商店として魚屋の「魚國商店」を取り上げ、個人商店ならではの良さや魚屋としての専門店の良さをさぐることを問題とし、全員で考え話し合いたい。しかし、児童はスーパーマーケットの見学の際に着目した「価格」「品揃え」「サービス」などを基に考え進めていくことが予想される。その際にスーパーマーケットでよく買い物をしている児童と、家の人が個人商店でも比較的買い物をしている児童とで、見方や感じる良さが異なってくると考える。ただ価格だけを見れば、スーパーの方が安いかもしれないが、「この品質でこの値段ならば安い」という家の人の考えから個人商店は「安い」と聞いてきた児童とずれが生じてくる。また、ポイントカードなどのサービスは少なくとも「店の人からの情報」をサービスにとらえると、サービスの有無などについても意見のずれが生じてくると考えられる。市場から仕入れた魚を強みとする魚屋ではあるが、スーパーマーケットでも新鮮な魚を仕入れており、「新鮮」の有無についても論点となると考える。こうしたずれや論点を、ひびき合いとし話し合いを行っていく。

最終的には、個人商店の店主とお客のやり取りなど、コミュニケーションの在り方も良さの一つであることに気づかせるようにしたい。また、コンビニエンスストアや複合施設の良さについてもふれるようにしたい。こうしたそれぞれの良さを認めながら、消費者（家の人）が選択し、より良い買い物をしようとしていることに気づかせたい。そして、児童自身も今後、消費者という立場になった時に、より良い買い物ができる視点を持たせたい。

まとめていく段階では、追究活動で分かった事実をまとめるだけでなく、その事実から分かることや

意味についても考えさせ、始めの「買い物調べ」などで疑問に思ったことや考えたことに対する自分なりの考えが述べられるようにしていく。お店の新聞（チラシ）とした形でまとめていくが、国語の「見てきたことを新聞にまとめよう」という単元と組み合わせ、学習を進めていく。自分が消費者として行きたくなるお店の新聞を作るという形で表現させることで、販売者の工夫や消費者の思いを自分なりの言葉でまとめていくことになる。消費者と販売者双方の視点を考えることで、指導要領での「社会生活の様々な場面で多面的に考えたり、公平に判断したりすることなどの態度や能力」が育てられると考える。

5. 単元構想「見つけたよ まちの人たちの仕事」

単元目標地域の販売に関する仕事に関心をもち、買い物調べや商店の見学を通して、地域の人々の販売に関する仕事の特徴、その仕事
が自分たちの暮らしを支えていること、地域の販売の仕事と国内外の他地域との関わりなどについて理解し、よりよい生活を求める消費者と販売
に携わっている人々の工夫や努力について考え、適切に表現する。

社会科「わたしたちの
まちはどんなまち」

買い物調べをしよう

学区で、みんなが買い物に行く店
について視点を絞っていく。

●コンビニで買い物をする人が多いね。何を買っているのかな。・小田百で買い物をする人も多
い。・エポやアプリで買い物している人も多い。・小田原駅（ラスカ）で買い物をする人は少な
い。小田原の中心なのになんでかな。・学区外のスーパーに行く人が多いね。車でいつも行くよ。

●学区で一番よく買い物に行くお店はどこだろ
う。もう一度調べてみようよ。

学区調べで、国道沿いにあった
お店について想起させ、商店の
存在を確認しておく。

スーパーの人気のひみつをさぐろう

「小田原百貨店」で買い物をする人が多い理由（店の良さ）を予想し、調べ方を考え、見学の計画を立てる。

・味見ができる。「美味しいですよ」ってアピールしている。・店が広いと、見やすいし、物をいっぱい売れる。種類が多い。・同じ物が一
方所に集まっていて、さがしやすい。・天井から看板がさがっていて、さがしやすい。・安い。「〇〇円引き」とかタイムセールがやってい
る。・曜日によって安くなる物がある。・新聞にチラシが入っている。大人は毎日見て、お得な日安い日に買いに行く。・入口にもポスター
などがある。・ポイントがたまる。

●家の人に、よく行く（よさ）について聞いてみよう。・実際にお店を見にいけば分かるよ。

・家から近いから。
・夜遅くまでやっているから。
・安くて色々なものが売っているから。
・車でいけるから。
・チラシで「安売り」をしているから。
・ポイントカードがある。

・品物いろいろ（一つの品物の種類・ど
んなものが売られているか）
・店（店内・立地など）
・売り方（品物の様子・ラベル）
・サービス（店の設備・サービス）
見てくる視点を事前にまとめ、グルー
プにわけておく。

「小田原百貨店」にひみつをさぐりに行こう

・本当にたくさんの商品がそろえてあった。・昼間なのに買い物に来ている人が意外
と多い。・今日はポイント2倍デーとかいてあった。・お店の裏側でも働いている人
がいた。

スーパーが人気なひみつは（まとめ）

・お店にはたくさんのサービスや工夫がある。
・予想通りだった。・予想していた以上に工夫があった。
・店だけでなく、働く人も大切な人気のひみつだった。
・他のスーパーも同じサービスや工夫があるのかな。
・同じなら、どうしてよく行くスーパーと行かないスーパーができるのかな。
・「安さ」「行きやすさ」「ほしいもの」が家の人によってちがうからだと思う。

魚屋さんのひみつは？（本時）

・大きな駐車場がない。車で行けない。不便じゃないか。⇒歩いて
いける近所の人が買いにくるのかもしれない。
・夜遅くまでやってない。買いにいけない。
・魚屋だと魚しか買えないから不便だ。また別の店に行かないとい
けない。⇒魚の種類がいっぱいあるから。
・値段はどうだろう。チラシとか見たことないよ。特売をしてない。
・家の人が高いって言ってた。でも、美味しいって言ってた。
・家の人は「安い」って言ってた。

魚屋のひみつをさぐりに行こう

・新鮮なものを早川漁港からその日の朝仕入れているん
だ。・近いから新鮮なんだ。・魚はたくさんの種類がある
ね。・お店の人が直接お客さんに説明をしていた。・その
場で切っている人がいた。・大きな声でお客さんをよん
でいた。にぎやかだ。・お店の人に相談して何にしよう
か決められる良さがある。

お店のチラシを作ろう

国語「見てきたことを新聞にまとめよう」と併せて学習を進める。

・スーパーのたくさんの秘密をお客さんにつたえたい。裏側の仕事
も紹介したい。
・買い物をするお母さんも知らないことを書きたい。
・魚屋とかにもっと買いに行つてほしいから、良さをアピールした
い。
・コンビニはよく買いにいくけど、知らないことがあったからそれ
を伝えたい。

・これまでの学習を振り返り、店の良さを伝える新聞を作成する。
自分が買う時を想起させ、消費者の視点と店側の思いを盛り込んだ
新聞を作成することで、よりよい買い物をするための視点をとらえ
る。実際に、見学した店先に貼らせてもらえるようにする。

他のお店のひみつは？

・コンビニエンスストア…24時間やっているから買い忘れ
てもすぐ行けて便利だ。お弁当などの種類が多い。本や日用
品なども置いてある。ATMもあるから便利。
・複合施設…家族みんなの物が一気に買える。洋服や本など
食品以外の物が全部そろる。買い物だけでなく、レストラ
ンもあって、食事ができる。

それぞれ店の良さの違いを確認し、消費者はその時々
のニーズに合わせて買う店を選んでいくことを知る

6. 本時について

(1) 本時目標 個人商店を利用する理由について、既習事項を参考に考え話し合うことを通して、見学に見通しを持つ。

(2) 本時展開

学習活動	主な支援・留意点 【評価】
1 本時の学習問題を確認する。 魚屋さんのひみつをさぐろう ～魚屋さんのよさを考えよう～ 2 どのような「良さ」があるのか話し合う。(予想) サービス 魚の種類がいっぱい スーパーには売っていない魚 安い 美味しい 朝、仕入れた物を売っているから新鮮・とれたて 売り方 切り身じゃなく魚1匹で売っている さばいた物と1匹、両方売っている ライトで照らして美味しそうに見せている 「おすすめ」と書いてある お店 清潔にしている 手袋をしている 写真①② お店の人が話しかけている 曜日によって安くなるサービスがある 小田原でとれた物 ⇒新鮮 その場で切っている 写真③ まとめて買うとお得 生きたまま売っている ラップしたりトレーにのっていたりしない。そのまま。 ⇒清潔じゃない？ ⇒新鮮で切ったばかり 美味しそうに見える 手書きの札がある 写真④ はたがかざってある ⇒お客さんを楽しませるもの どうやって確かめるの？ 直接見に行ってみよう！ 【聞きたいこと・疑問に思っていること】 魚の種類（商品の数）はどのくらい。 商品の並べ方に決まりはあるのか。 どうやって仕入れているのか。 魚をつる人がいるのかな。 試食はできるのか。 凍っていたり凍っていなかったり、ちがいはあるのか。 魚と一緒にどんな物が売られているのか。八百屋だと果物も一緒に売っている。 発泡スチロールに水をいれているのはどうして。 3 写真を見て、気づいたことを出し合う。 4 見学でどんな事を確かめるのか整理する。	○前時までの想起をし、今日のめあてを確認することで、学習意欲が持てるようにする。 ○話し合いを意識させ、話し方や聴き方について適宜声をかける。 ○児童の考えを板書で整理していく ○お店の良さは感じる人によって違うので、解釈の違いを大切に扱う。 ○何を根拠にしているのか、言える児童には言わせていく。 ○意見が出尽くしたところで、写真を見せ、これをもとに考えを深めたり持ったりできるようにする。 ◆個人商店の良さについて、スーパーマーケットの工夫を基本に考え、発表しようとしている【関】 ◆個人商店でお客さんが買い物をする理由と、お店の工夫を関連づけて考えている。【思】

7. 実践を終えて

単元全体を通して、最初の買い物調べについては教師側からの与えられた課題となったが、その後の結果から更に調べたいこと、もっと詳しく知りたいことなどは児童からの意見を吸い上げ、学習問題として単元を構成していった。買い物調べを連休に行ったことで、家族で遠出をしたり、いつもと違うお店で買い物をしたりと、日常の買い物の様子を知るデータとしては不十分な結果となってしまった。しかし、それでも学区内の大型スーパーマーケットで買い物をする家庭が多くいるという結果がでた。まず、児童はスーパーを利用する理由を考え始めた。更にコンビニエンスストアも利用する家庭が多く、その理由についても知りたいとなった。買い物調べの結果、個人商店で買い物をする家庭が少なく、スーパーを見学し、良さや工夫について知れば知るほど、個人商店へ着目する児童が少なくなってしまった。そこで、にぎわっている魚屋（個人商店）の様子を写真で見せ、小田原市は県内でも魚屋が三浦市に次いで二番目に多いという資料を提示し、児童の思考を変えさせ、「自分達は利用をしていないだけで、世の中では魚屋（個人商店）を利用している人はたくさんいる。」というように考えさせたかった。実際にスーパーマーケットでの見学が終わると、買い物調べでスーパーマーケットを多くの家庭で利用していることに納得していた。

本時の学習課題「魚屋さんのひみつをさぐろう～魚屋さんのよさをさぐろう～」では、最初のにぎわっている魚屋の写真（店先）を見せ、学習を始めた。子ども達からは驚きの声があがり、盛り上がったように感じた。しかし、魚屋に行った経験のある児童はほとんどおらず、良さについての予想意見はなかなか出てこなかった。そこで、きっかけとして、魚屋の様子の写真をいくつか提示し、グループごとに考えさせた。すると、意見は色々出てきたが、スーパーマーケットとの違いとして受け止め、ずれるような意見が出ず、意見の出し合いで終わってしまった。こうした背景には、児童の魚屋での買い物経験の少なさと、魚屋の良さについて知りたいと思う気持ち（切実さ）が足りなかったことが考えられた。授業の最初に、写真を提示しただけでは児童の切実な学習問題としては成り立たなかったと感じた。本時では、友達の意見について「あ、なるほど」「いいと思います」などや「〇〇さんの意見に付け足しで」などひびきあおうとする姿は見られた。その一方で、友達の意見から自分の意見が変わるという場面がなく、変容がないままに終わってしまった。本時だけで見ると、単元のねらいである、「地域の人々の販売に関する仕事の特色、その仕事が自分たちの暮らしを支えていること」へ近づくことはできなかった。本時のねらいとして「既習事項を参考に考え話し合うことを通して、見学に見通しを持つ。」という点では、達成できたと思う。

この単元構成では、児童の切実感が途中で途切れてしまうことが分かった。買い物調べを行うことから始まる学習の流れは良かった。買い物調べを通して、学区や小田原市について再度見直す機会になった。小田原駅を中心とし個人商店が栄え、国号1号線沿いにある大型スーパーマーケット、郊外にあるショッピングモールなど、小田原市の様子など既習事項をいかし、地域の特性を再度確認することができた。その中で、店の良い悪いだけで終わってしまわないように、それぞれの店舗の努力と工夫を知った上で、その時の状況に応じて取捨選択し、買い物をしていることを知り、また自分自身も同じように買い物をしていけるように学びを深めていくことができた。

課題として、児童の主体的・協働的な学習の取り組みとしての単元構成になるように流れを改善する余地があると感じた。単元を通して、児童の意欲や探究心が一貫するような単元構成を考えていく必要があると感じた。そのために、買い物調べを行う時期を丁寧に検討し、その前になぜ行うかなど、児童

の意欲を高める言葉なども検討していく必要があると感じた。また、調べるワークシートについても、どの児童も毎日意欲的に取り組めるような工夫や配慮が必要だった。買い物を毎日する家庭も多く、買った物を書く手間は、書くことが苦手ではない児童にも大変な様子だった。レシートを貼るだけでもいいとするだけで、児童の取り組み易さは変わった。また学区の特性から、個人商店の利用があると考えていたが教師の予想が浅かったことも、単元構成に響いたと考えられる。地域の特性だけでなく、事前に家庭の様子などもしっかり把握しておく必要があった。以上の点から、単元構成の前に、教師の教材研究、地域を扱うための情報収集などより必要性を強く感じた。今後の研究には、こうした点を改善し、努めていきたい。